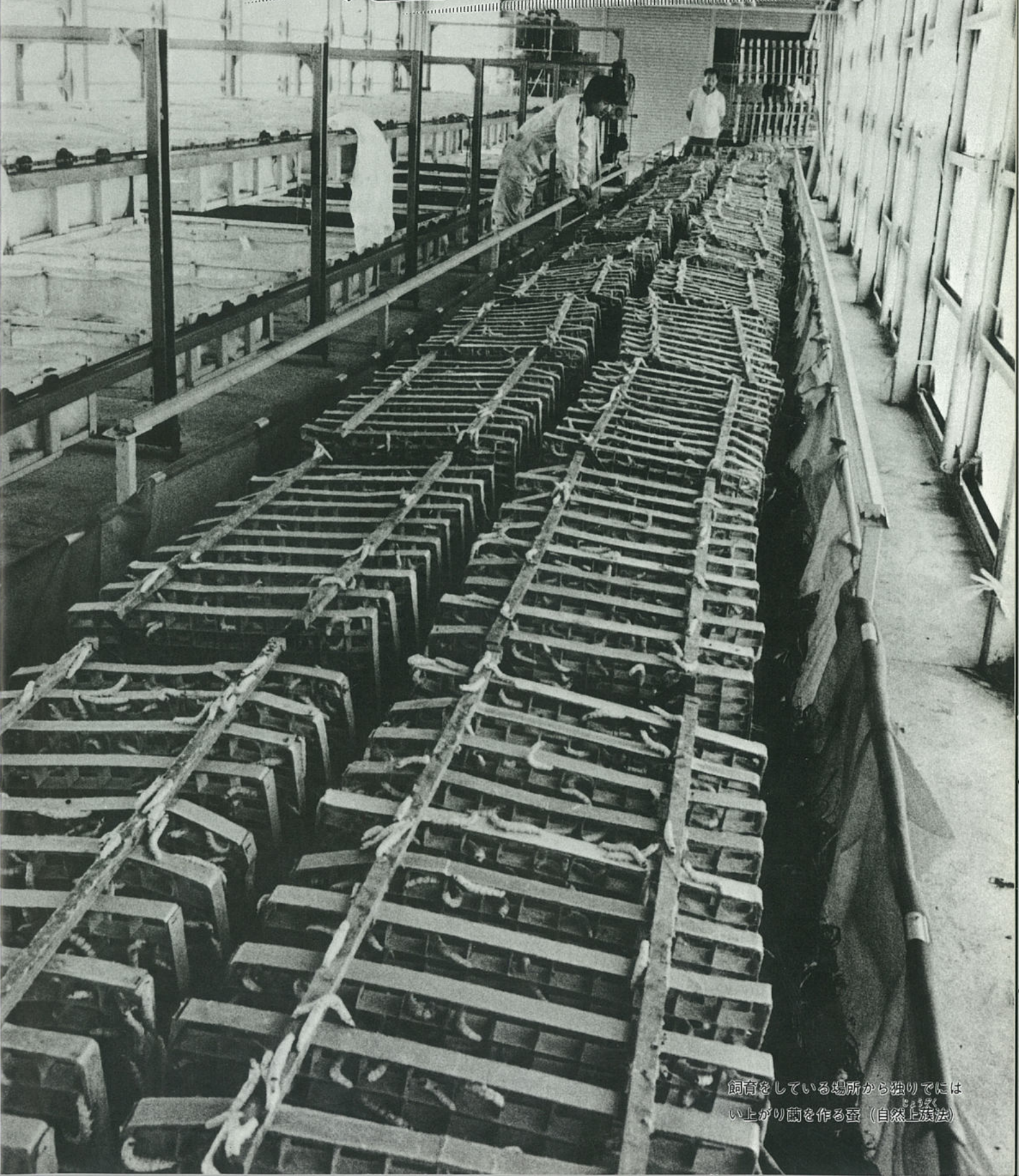




カメラ探訪

# 進む養蚕技術



飼育をしている場所から独りでは  
い上がり繭を作る蚕（自然上法）



古くから県南地方を中心に行われてきた養蚕も、最近では農家の複合作目として見直され、57年度の県内繭生産量は808トンで前年比114%の増加となった。

県蚕業試験場では本県の養蚕発展を目指し56年から施設整備を進め、最新の設備を導入した。なかでも、精密環境調節蚕室には蚕の飼育環境を人工的に調節する全国有数のプログラムコントロール装置を備えている。

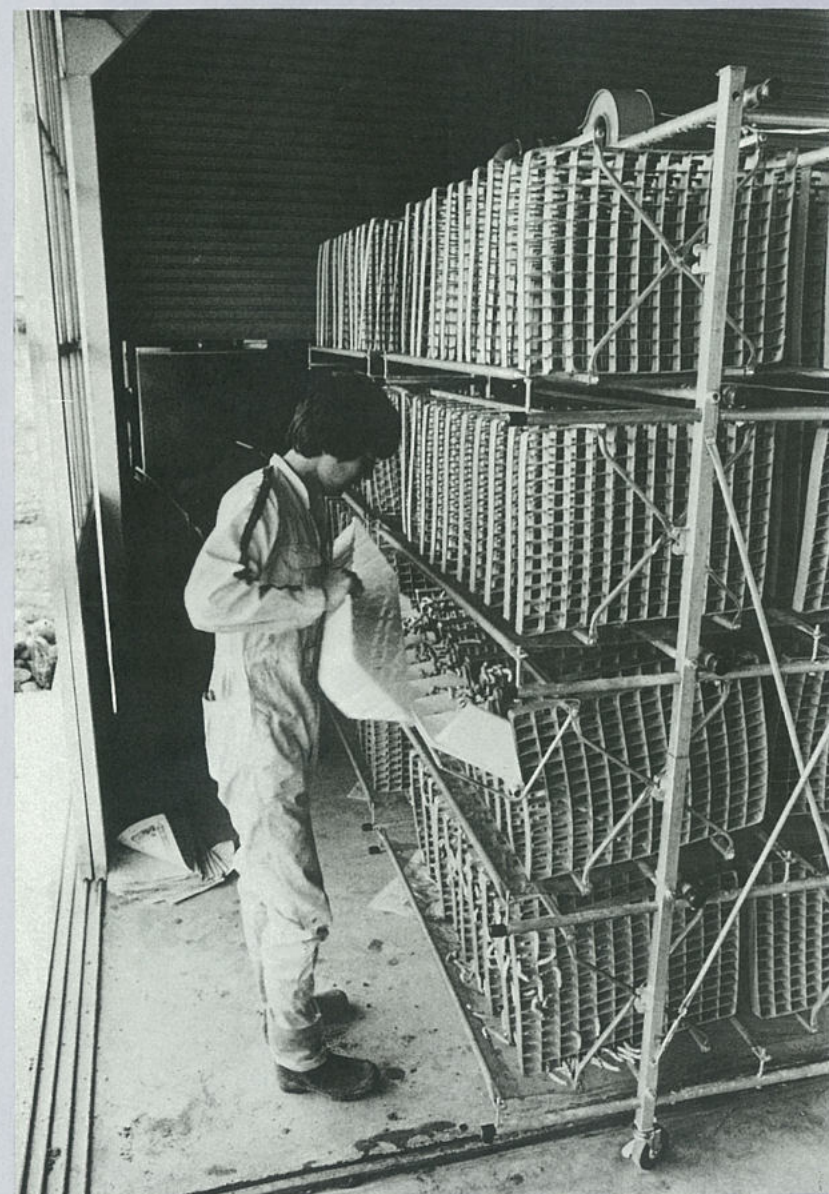
また、最近開発された密植速成機械化桑園の技術は、これまでの3倍以上の本数、10㎡当たり2,500本から5,000本の桑を植えることにより早期多収穫が可能となっており、しかも機械を使って刈り取るという画期的なもの。このほか幼い蚕の人工飼料育の実用化など、新しい養蚕技術の開発を進めている試験場の様子をカメラで追ってみた。



▲桑の葉の粉末に大豆の粉末やビタミンなどを加えた人工飼料によって育てられる蚕



▲密植速成機械化桑園の刈り取り作業。刈り取った桑は束ねられて出てくる



◀繭を作り始めた蚕

一般の養蚕農家で行われる  
▼枝付きの桑の葉による飼育



繭を作る時期になると条払い機で桑の枝と蚕を分離。  
▼これで省力化が図れる



▲蚕が入った回転盤をつるす作業

▲良質な繭を作る環境を与える立体的な上蔭装置。これ一台で2万粒の繭が出来る